

新 夏 鐘

うことであり、あらためて大崎町民の住民力の高さが証明されたといっても過言ではございません。今後とも住民の皆様と連携しながら持続可能な社会づくりを推進してまいります。

12月に開催された第2回『ジャパンSDGs（注釈1）アワード』において内閣官房長官賞を受賞いたしました。応募団体250の内、自治体への受賞は、本町のみという結果であり、これまでの持続可能な取り組みの先進性が評価されました。

次に小中学校への空調設備等の整備充実でございます。

少子化による児童生徒数の減少は本町の将来にとって大きな懸案事項でございます。

そこで近年の夏場の猛暑に対し、教育環境の改善を図ろうと環境省関連の有利な補助事業（カーボン・マネジメント強化事業等）を導入し、全ての小中学校に空調設備と照明設備を整備中でございます。これによりエアコンの設置率が全国平均を上回ることであり、子どもたちが快適に学べる教育環境が提供できると考えております。

また、これまで実施してまいりましたマイホーム取得の際の補助金制度、高校生までの医療費無料

化、学校給食費の引き下げ、中学校入学時の援助金支給事業、こんにちは赤ちゃんギフト事業、ブックススタート事業など、引き続き子育て世帯向けの施策に力を入れてまいります。

次に県立有明高校跡地に整備中の陸上競技トレーニング拠点施設「ジャパン・アスリート・トレーニングセンター・大隅」が本年3月には完成する予定でございます。

「ジャパン」という冠を称した大きな名称であり、また2020年の東京五輪に向け、台湾を相手国としたホストタウンにも認定されていることから、国内外の一流アスリートが本町を訪れる体制が整ってまいりました。この絶好の機会を活かし、一流アスリートから一般の愛好者までが気軽に楽しめる体制づくりを進めてまいります。

また7月には、大崎町総合体育館におきまして社会福祉法人愛生会主催による「カブト虫相撲大会」がおこなわれました。第30回目という記念すべき節目の年でもあり、3000名超という多くの子どもたちと保護者の皆さんが県内外から参加されていました。

カブト虫相撲という本町の豊かな自然環境を有効に活用しながら、30年という長い間、本町観光

PRの一翼を担っていただいた関係者の皆様のご尽力に感謝いたします。

さて、これまで述べたような事業が新聞等で数多く報道され、大崎町への注目度が高まっていることを感じております。

私の5期目への公約でございます「人は、地域活動の原動力。対話を重んじ、産・官・学・金との連携で、未来へつなぐまちづくりに挑戦。」を進めるにあたり、ますます気力・体力を充実させ、公正を心がけ、対話を重んじ、決しておごることなく、さらなる町政発展のため誠心誠意努力してまいりますので、今後とも一層のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

結びに、新しい年が、皆様にとりまして幸多き年となりますよう祈念申し上げ、年頭のあいさつといたします。

平成31年1月

大崎町長 東 靖弘

注釈1：SDGsとは「Sustainable Development Goals」の略称。2015年に国連

で採択された貧困、飢餓、不平等など17課題を解決するための目標のこと

豊かな自然が宝物みんなて